

# 平成24年度 事業報告書

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日

財団法人 性の健康医学財団

# 平成24年度 事業報告

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

財団法人 性の健康医学財団

## 【公益事業】

性感染症を取り巻く昨今の状況をみると、若年層における発生の増加は停滞傾向がみられるもののなお広く蔓延していることが報告されている。

また、若年層は、性感染症に対する知識の不足や罹患の危険性について危機感が乏しく放置すれば未来を担う若者の性の健康を大いに損なう恐れがあり、性感染症に関する正しい知識の普及啓発はますます重要性を増している。

当財団は、従来から実施している各種普及啓発活動とともに、Eメールによる性の健康相談、性感染症予防活動に従事する助産師、保健師、看護師、医療スタッフおよび学校で性教育を担当する養護教諭並びにカウンセラーなどを対象とした性感染症予防基礎講座、また臨床現場の医師を対象とした性感染症に関する最新情報を提供する性感染症最新講座の開催を通して、性感染症の早期発見、予防啓発を行うなど蔓延防止のための諸事業を展開してきた。

また、当財団提唱の市民への啓発行事である「第12回性の健康週間」は、厚生労働省、文部科学省等の後援のもと、各自治体、保健所等に予防啓発の展開を呼びかけるとともに、週間行事の一環として市民公開講座を石川県金沢市の金沢大学講堂において開催し、性の健康思想に関する普及啓発を成功裡に行うことができた。

平成24年度においては、前年度までの実績を踏まえ以下の事業を実施した。

## (事業報告内容)

### 1 役員会及び評議員会等の開催

- ・平成24年6月1日：監事監査
  - ①平成23年度事業報告及び収支決算の監事監査実施
  
- ・平成24年6月7日：第1回常任理事会
  - ①理事会及び評議員会提出議案等について
  - ②JKA補助事業の課題について
  
- ・平成24年6月26日：第1回理事会
  - ①平成24年度事業計画の変更(案)に関する審議・可決
  - ②平成24年度収支予算の変更(案)に関する審議・可決

- ③平成 23 年度事業報告（案）に関する審議・可決
- ④平成 23 年度収支決算報告（案）に関する審議・可決

・平成 24 年 6 月 26 日：第 1 回評議員会

- ①平成 24 年度事業計画の変更（案）に関する審議・同意
- ②平成 24 年度収支予算の変更（案）に関する審議・同意
- ③平成 23 年度事業報告（案）に関する審議・同意
- ④平成 23 年度収支決算報告（案）に関する審議・同意

・平成 24 年 10 月 3 日：第 2 回常任理事会

- ①PCB 廃棄処分について
- ②その他

・平成 24 年 11 月 6 日：第 3 回常任理事会

- ①ネットによる S T I 郵送検診事業に関する企画検討
- ②その他

・平成 24 年 11 月 29 日：第 4 回常任理事会

- ①公益財団法人化に関する件について
- ②人事について

・平成 25 年 1 月 31 日：第 5 回常任理事会

- ①公益財団法人化に関する件について
- ②財団事業について

・平成 25 年 3 月 22 日：第 6 回常任理事会

- ①理事会・評議員会提出議案について
- ②その他

・平成 25 年 3 月 25 日：第 2 回理事会

- ①平成 25 年度事業計画（案）に関する審議・可決
- ②平成 25 年度収支予算（案）に関する審議・可決
- ③公益財団移行認定に関する審議・可決
- ④その他

・平成 25 年 3 月 25 日：第 2 回評議員会

- ①平成 25 年度事業計画（案）に関する審議・同意
- ②平成 25 年度収支予算（案）に関する審議・同意
- ③公益財団移行認定に関する審議・可決
- ④その他

## 2 第12回「性の健康週間」事業の実施

平成24年11月25日から12月1日までの1週間、厚生労働省、文部科学省、社団法人日本医師会、公益財団法人エイズ予防財団の後援、また、日本コンドーム工業会の協賛により行われた第12回「性の健康週間」を中心に下記の事業を実施した。

この事業は、当財団の社会的使命に基づいて行う事業活動の要として位置づけ、加えて厚生労働省が推進している「健やか親子21」のプロジェクトの主目標の一つである「10代の性感染症の罹患率を減少させる」運動の一環としても位置づけられている。

### (1) 市民公開講座の開催

「性の健康週間」に先立ち11月4日に「いのちを大切に～みんなで知ろう子宮がんのこと～」をメインテーマとして市民公開講座を開催した。

開催場所 金沢大学医学類十全講堂（石川県金沢市宝町13番1号）

参加人員 500名

演者 北村 唯一（財団法人性の健康医学財団理事長）

並木幹夫（金沢大学附属病院泌尿器科教授）

浮田俊彦（石川県産婦人科医会会長）

竹田康男（金沢市医師会会長）

ほか

### (2) 「性の健康週間」ポスターなどの作成・配布

「性の健康週間」のポスターを作成し、国、各自治体、保健所、関係団体に配布した。

## 3 性の健康相談事業

### E メールによる性の健康相談

性に関する様々な相談メールに対し、適切な助言・指導を行った。

平成24年度1年間の相談メールは、146件であった。

## 4 性感染症相談事業

性感染症の感染に関し、不安を感じている者からの電話相談に応じ、社会的、精神的不安の軽減に努めるため、助産師等による電話相談事業を実施した。

相談は、土・日曜・祝日を除く月曜日から金曜日の週5日、相談時間は、13時00分から17時00分までの間、実施した。

平成24年度1年間の相談件数は、約1,000件であった。

## 5 青少年の性感染症予防のための情報提供事業

国内外における STD 発生状況等を収集、分析し、若者世代へ性感染症予防に関する情報を提供することを目的に、ホームページ及び携帯サイトから「若者のための性感染症情報ネット H の病気」として情報提供を行った。

## 6 その他の普及啓発活動

### (1) 性感染症の予防啓発のためのパンフレット、手引書の作成・配布

財団法人 JKA から一部補助を受けて、「性感染症予防啓発の手引き 2012」を作成して、国、自治体、保健所、関係団体などに配布した。

### (2) 機関誌ジャーナル「性の健康」とニューズレター「性の健康」の発刊・配布

機関誌ジャーナル 15 号（9 月 28 日）及び 16 号（3 月 30 日）とニューズレター 23 号（5 月 30 日）及び 24 号（11 月 30 日）を各 1,000 部発刊し、会員及び関係機関等に配布した。

### (3) 性の健康医学に関するホームページ

性の健康情報に関する財団のホームページについては、財団事業の報告を掲載した。

### (4) 第 4 回臨床現場の医師のための性感染症最新講座の開催

本講座は、臨床で性感染症を診ている医師を対象に最新の知見や情報を提供し、性感染症に関する予防啓発のため講座を開催した。

開催日時 平成 25 年 2 月 3 日（日）13 時 00 分から 17 時 00 分

開催場所 ティアラこうとう（江東公会堂）（東京都江東区住吉 2-28-36）

受講者数 60 名

講演内容及び講演者等

日本性病予防協会の淵源と最近の 2, 3 の新知見

財団法人 性の健康医学財団 理事長 北村唯一

性感染症 診断・治療ガイドライン改訂の狙いとポイント

岡山県環境保健センター 所長 岸本寿男

女性医療の現場における STD(性感染症)の現状

日本大学医学部医学科 教授 早川 智

男性機能における諸問題

帝京大学医学部附属病院泌尿器科 講師 久末伸一

中高年女性の健康とヘルスケア

東京医科歯科大学大学院 教授 久保田俊郎

(5) 第6回医療従事者と養護教諭のための性の健康基礎講座の開催

助産師、保健師、看護師、医療スタッフ、養護教諭、カウンセラーなど性感染症予防活動に従事する者を対象とした医療従事者と養護教諭のための性感染症予防基礎講座を開催した。

開催日時 平成25年2月10日(日)10時00分から16時30分

開催場所 タワーホール船堀(東京都江戸川区船堀4-1-1)

受講者数 34名

講演内容及び講演者等

開会挨拶・ショートスピーチ 性の健康医学財団常務理事

東邦大学看護学部教授 齋藤 益子

講演Ⅰ 性の健康と歴史 性の健康医学財団理事長 あそか病院院長 北村唯一

講演Ⅱ 福島県における夢をはぐくむいのち生きいきプロジェクト事業に

よる性に関する指導の推進 福島県教育庁健康教育課 塩田 咲江

子宮頸がんワクチンの現状と展望

ジャパンワクチン株式会社 谷田部敬太郎

ワークショップ ―地域・学校・医療・保健が協働した性の健康の推進―

東京医療保健大学准教授 渡會 睦子

保健行政：地域全体で進める鎌ヶ谷市思春期ネットワークの歴史

鎌ヶ谷市役所 健康増進課主査(保健師) 菅井 智美

学校：学校教育における性の健康教育の手引き

塩田 咲江

医療従事者：学校と協働した命の教育 岩手県立二戸病院産婦人科科長

岩手県立北周産センター科長 秋元 義弘

一般：HIV感染者として活動してきた性の教育

桜屋伝衛門

質疑応答

(6) 高校生を対象とした性感染症(STI・STD)講座

全国の高等学校生を対象(一部、中学生を含む)として、教育現場に於いて正しい性感染症の予防と知識を講義した。

24年度実績

学校名	対象者
横須賀学院高等学校	高校3年生男女487名
群馬常盤学園常盤高等学校本町校舎	特別進学コース1~3年男女50名
群馬県立藤岡中央高等学校定時制	定時制・普通科男女68名

三重県立神戸高等学校定時制	定時制・普通科男女30名
茨城県立結城第二高等学校	フレックス制 250名 定時制 50名
群馬常盤学園常盤高等学校飯塚校舎	普通科 1～3年男女400名
佐倉市立根郷中学校	中学1～3年生 260名

## 7 調査研究事業

### (1) 「男性性器の HPV 年齢層別検出率の調査」

最近、子宮頸がんの大部分はヒト・パピローマ・ウイルス (HPV) が原因ウイルスであるということが明らかとなった。

この HPV には 100 型以上の異なる型が存在し、その中で 16 型、18 型などが高リスク型 HPV とされ、子宮頸がんを、また、6 型、11 型などは低リスク型 HPV と呼ばれ主に尖圭コンジローマを惹き起こすとされている。これらの HPV の感染を予防するために子宮頸がんワクチンが開発され、臨床で使用されている。

これらのことから、一般健常女性の HPV 浸透率はある程度明らかになっているが、HPV の保菌者ともいえる男性に関して年齢層別 HPV 罹患率はまだ判明していないため、男性の HPV 罹患率及びその型を調査することは非常に意義があり、このことから男性の性器 HPV の年齢層別検出率を調査した。

まず、対象として、関東地方の男性泌尿器科受診患者 0 歳代から 80 歳代まで 10 歳毎に層別化し 433 名を調査した。

方法は、陰茎亀頭を綿棒で擦過したものを検体とし、まず hybrid capture 法で陽性例を検出し、陽性例に対して、Amplicor linear HPV genotyping kit を用いて型分類した。

結果は、oncogenic type が 30 例 (6.9%)、non-oncogenic type が 38 例 (8.8%) で合計 68 例 (15.7%) が検出された。oncogenic type は 20 歳代から 70 歳代まで 10%前後で検出されたが、0 歳代、10 歳代、80 歳代では検出されなかった。中でも、50 歳代では検出率が 14.6% (6/41 例) ともっとも高く、しかも最も子宮頸がんに関連があるとされる 16 型と 18 型が 33% (2/6 例) に検出されたことから、50 歳代は男性群の中で最も危険な年齢層の可能性が示唆された。

Non-oncogenic type に関しても、0 歳代、10 歳代、80 歳代ではほとんど検出されず、この年代では性活動が不活発であることが示唆された。

20 歳代、30 歳代では STD の割合が高く、尖圭コンジローマも 5 例認められた。

HPV 検出例実数は 52 例 (52/433=12.0%) であり、複数の HPV が検出された症例が 23 例 (23/52=44.2%) あった。

Oncogenic で最も高率に検出された型は 52 型であり、10 例 (10/52=19.2%) であった。

また、HPV 感染と亀頭色素沈着及び仮性包茎には有意な相関は見られなかった。

(2) 「若年女性の HPV 感染の実態と性に関する健康調査」

ヒトパピローマウイルス（以下、HPV という）の感染は子宮頸がんの原因であり、若年女性の罹患率が高い。この予防策に HPV ワクチンが開発され、日本でも平成 21 年にワクチンが認可され、平成 23 年度には 12 歳から 16 歳を対象とした公的補助が導入された。ワクチン導入後 3 年を経過したが、キャッチアップ接種状況や性感染症に対する前方視的な波及効果が期待される状況にある。

一方、財団の調査研究事業によるある県の大学生を対象とした HPV とクラミジアのトラコマティスの感染状況に関する疫学調査があり、これを併せて東京においても調査を行い比較検討する。これにより、若年者の HPV 及びクラミジアトラコマティスの感染状況及び性の健康に関する意識が明らかになり、今後の性感染症予防教育への示唆を得ることができるものと考ええる。

研究対象：看護系大学女子学生 20 歳から 22 歳未満の 100 名、既に予防ワクチンを接種した者は除く

調査方法：子宮頸がん及び HPV 予防ワクチンに対する意識調査と膣分泌物による HPV 及びクラミジアトラコマティスの DNA 検査

8 性の健康医学研究推進のための助成

(1) 性の健康医学財団賞の設置及び表彰

財団は、大正 10 年 10 月に財団法人日本性病予防協会として設立して以来、平成 23 年 10 月をもって創立 90 周年を迎えた。その記念事業の一環として、性感染症を始め性の健康を損なう諸要因を医学的に究明して性に関する医学技術の発展を図るため、性の健康医学財団賞を設けた。

本賞の研究課題は、性感染症分野、泌尿器科分野、産婦人科分野の三分野としてそれぞれの委員会において厳正な審査のうえ、理事長が決定するものであり、第 2 回目の平成 24 年度受賞者は下記の者とされ、平成 24 年 11 月 4 日開催の市民公開講座会場において、表彰状及び金一封を添えて表彰された。

性の健康分野	堀	成美（聖路加看護大学看護学部）
泌尿器科分野	高橋	聡（札幌医科大学医学部泌尿器科）
産婦人科分野	平野	由紀（自治医科大学産婦人科）

(2) 日本性感染症学会へ研究助成金を交付した。